
大学教育学会ニュースレター

No.102 2016.4.15

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail: jacue.office@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

大学教育学会第38回大会を開催するにあたって

大学教育学会第38回大会(2016年)

大会実行委員長 安岡 高志(立命館大学)

本年6月11日(土)と12日(日)の両日、大学教育学会第38回大会を立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催予定である。本キャンパスはアジアのゲートウェイ、都市共創、地域・社会連携をコンセプトに開設されたもので、ヨーロッパの伝統ある大学が都市型であったように地域に根ざした大学を意図したものであり、グラウンドに続く公園にはジャングルジムが設置される等、市民と触れ合うことを目指したキャンパスである。

本キャンパスにおける大会の共通テーマは「伸びる大学の教育力—成果を出せる大学にはどのような教育力が必要なのか—」である。これを見た大学人の多くは、どうすれば教育力を生み出すことができるかというスキルや方法に興味を抱いているのではないかと推察する。しかし、求められている教育力は組織の教育力である。個人のスキルが優れていても一段上位の学科や学部のビジョンがなければ、個々の力を組織として結集し十分な教育成果を出すことは期待できない。また、学部の成果を大学の成果として束ねるためには大学のビジョンが必要である。すなわち、同じレベルの個人や組織が議論を行っても一段上の目的がビジョンとして描かれていなければ、一定の方向性を導くことは困難である。

以上のように現場で取り組んでいることを組織として一定の方向性を持たせるためには上位のビジョンが必要である。今回、基調講演で早稲田大学理事の大野高裕氏にWaseda Vision 150による教育力向上へのチャレンジと題する早稲田大学のビジョンについてご講演を頂くことはこの上ない好機であると考えている。

本大会のテーマに関しては引き続き「伸びる大学の教育力は何が違うか—データに基づいて検討する—」と題するシンポジウムが予定されている。何が違うかという視点で大学経営の観点、IRと教学の観点、教育実践の観点、高等教育開発の観点から論じていただくことになっているので、面白く参考になることは必至であると考えている。さらに、大学の教育力を測り得る枠組みや指標としてどのようなものが相応しいのかも重要な論点である。フロアの方々にはぜひこうした観点を持って参加いただければ、さらに興味深い議論が展開されることと確信している。

その他に、自由研究とラウンドテーブルを合わせると108件が発表あるいは開催される予定であり、皆様方にとって実りある大会となることを期待している。実行委員会一同、微力ではあるが、万全を期して用意致しており、多数の方のご来校を首を長くしてお持ちいたしている次第である。

なお、本大会の開催に当たっては、会員の皆様、理事会の皆様、企画委員会の皆様、実行委員会の皆様、立命館大学の関係していただいた皆様方に多大なるご協力をいただいたことをここに感謝する。

大学教育学会第 38 回大会（2016 年）

統一テーマ

「伸びる大学の教育力ー成果を出せる大学にはどのような教育力が必要なのかー」

1. 開催期日および会場

期 日 2016（平成28）年6月11日 [土]、6月12日 [日]

会 場 立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市岩倉町2-150：JR茨木駅下車）

A棟・C棟 : ラウンドテーブル、自由研究発表

B棟 : 受付、事業報告会、基調講演、公開シンポジウム、情報交換会

2. 大会日程

第 1 日：6月11日 [土]

8:45	10:00	12:00	13:00	13:50	14:10	15:30	15:45	17:45	18:00	19:30
受付	ラウンド テーブル	昼食	事業 報告会	基調講演		公開 シンポジウム		情報 交換会		

↑ 9:15-9:50 オリエンテーション

8:45	受付開始
9:15 - 9:50	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 - 12:00	ラウンドテーブル
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 13:50	事業報告会
13:50 - 14:10	休憩
14:10 - 15:30	基調講演 大野高裕氏（早稲田大学・理事） 講演題目「Waseda Vision 150 による教育力向上へのチャレンジ」
15:30 - 15:45	休憩
15:45 - 17:45	公開シンポジウム 「伸びる大学の教育力は何が違うかーデータに基づいて検討するー」
18:00 - 19:30	情報交換会 ¹⁾

第 2 日：6月12日 [日]

9:00	9:30	12:00	13:00	15:00
受付	自由研究発表 I	昼食	自由研究発表 II	

9:00	受付開始
9:30 - 12:00	自由研究発表 I
12:00 - 13:00	昼食 ²⁾
13:00 - 15:00	自由研究発表 II

関連行事：6月10日 [金]

12:30 - 13:30	第1回編集委員会（次期）	（会場：B棟カンファレンスホール）
14:00 - 16:00	第1回理事会	（会場：同上）
16:30 - 18:00	定時代議員総会	（会場：同上）
16:15 - 18:15	プレワークショップ ³⁾	

1) 6月11日（土）情報交換会終了後の若手会員交流会について

今大会では、若手会員交流会を、下記日時で開催します。高等教育、FDにかかわる若手会員の研究交流・実践共有、また新規入会の促進を目的に開催されるものであり、これまでは愛媛大学、北海道大学にて開催されました。学生・大学院生、入職後5年以内程度の皆さん、同じ立場の仲間と研究、教育、実践、キャリアに関する情報交換をしてみませんか。ぜひ新たなネットワークを構築しましょう。

担当：佐藤浩章（大学教育学会・将来計画プロジェクト担当理事）

日時：6月11日（土）19時30分～21時

場所：GARDEN TERRACE LION 立命館いばらきフューチャープラザ店（立命館大学内です）

定員：先着50名

予算：3,500円（フリードリンクつき）

申し込み方法：4月18日以降に、学会ウェブサイトの新設される若手研究者交流サイトから申し込みをしてください。

2) 6月12日（日）ランチタイムセッションについて

昼食時にSTEM教育に関するランチタイムセッションが予定されています。参加を希望される方は、昼食をご持参のうえ、C273教室にお集まりください。

3) 6月10日（金）プレワークショップについて

本学会活動の大学教育改革への貢献の可視化と会員の能力開発を促すため、今大会よりプレワークショップ（2件、16:15-18:15同時刻開催）を実施いたします。参加をご希望される方は大会参加申込と合わせてお申し込みください（詳細についてはp.18をご参照ください）。

●プレワークショップA「アクティブラーニング入門」 講師：中井俊樹（愛媛大学） 会場：B 275

アクティブラーニングの実践が普及している一方で、アクティブラーニングに対して厳しい意見もあります。「教えられる内容が減少する」「学生が積極的に活動に参加しない」「活動しているだけで学習になっていない」「そもそも日本の学生にはあっていない」といったものです。アクティブラーニングの意義や特徴が十分に理解されないまま授業に取り入れられてしまうため、そのような意見が出されていると言えます。本ワークショップでは、効果的なアクティブラーニングの実践の指針を理解し、その具体的な方法を身につけます。授業や研修にアクティブラーニングを取り入れたい方を主な対象としますが、アクティブラーニングを学内で推進したい方、研修用の教材を作成したい方にも役立つでしょう。参加者にはテキスト（中井俊樹編『アクティブラーニング』玉川大学出版部）が配布されます。

●プレワークショップB「ルーブリック評価入門」 講師：佐藤浩章（大阪大学） 会場：B 276

1枚目のレポートの採点基準と50枚目のそれがずれていると気になったことはありませんか？評価にかかる時間をもっと短縮できたらと思ったことはありませんか？ルーブリックがそんな悩みを解決してくれます。ルーブリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。本セミナーではルーブリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、研修時間内に簡単なルーブリックをグループで作成します。成績評価の厳密化と効率化を進めたい教員だけでなく、カリキュラム・プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員の方にも有用な内容です。参加者にはテキストが配布されます（スティーブンス・レヴィ『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部）。

進行の詳細 ※所属は原則として2016年3月26日現在のものです。

6月11日（土）

9：00～ 受付

9：30～9：50 初めて参加する人のためのオリエンテーション

会場：B 275 担当：大学教育学会・常務理事 濱名篤（関西国際大学）

10：00～12：00 ラウンドテーブル

テーブル1 発達障害学生への学生支援・大学教育の役割

会場：C 274

企画者：青野透（徳島文理大学）、小川勤（山口大学）、枝廣和憲（立命館大学大学院）、加藤洋子（武蔵野美術大学）、橋場論（福岡大学）、吉武清實（東北大学）、大島啓利（広島修道大学）、片岡美華（鹿児島大学）、山中淑江（立教大学）

趣旨：障害者差別解消法が施行される。国立大学は、法律で義務付けられた職員対応要領のひな形が国大協から示され、各大学で4月1日までに公表する。要領は努力義務の公立大学も含め、障害学生の申し出に始まる合理的配慮が法的義務として行われる。他方、合理的配慮が努力義務にとどまる私立大学は、大学ごとで異なる。その中で、発達障害学生への対応は、昨年の課題研究集会で報告されたように、既に、本人の申し出によらない支援が、申し出によるその倍になっている。設置者の別なく、全ての大学で全ての発達障害学生が安心して学べるようになるため、教育としてどう支援・配慮すればいいのか、非会員による報告を交え議論する。

テーブル2 学生の「学び」を質保証する三つのポリシー＋アセスメント・ポリシーについて考える

会場：C 273

企画者：藤木清（関西国際大学）、芹澤高斉（淑徳大学）、濱名篤（関西国際大学）、川嶋太津夫（大阪大学）、林透（山口大学）、清水栄子（愛媛大学）

趣旨：我が国の学士課程教育の質保証を支える基本構造は、三つのポリシーに依拠している。この基本構造の強化には学位プログラム化の視点が欠かせない。中教審・質的転換答申（2012年）では、学位プログラム化を通じた学生の「学び」を質保証するには、ディプロマ・ポリシーの明示と、その方針に基づいた組織的なカリキュラム展開、さらには、アセスメント・ポリシーに則った学修評価の定着が必要不可欠であると指摘されている。三つのポリシーの策定が2016年度中に求められた状況のもとで、三つのポリシーとともに、重要課題として注目されるアセスメント・ポリシーの策定や定着のあり方について、幾つかの事例紹介を行い、参加者とともに考えたい。

テーブル3 学びと成長の場としての大学教育再考：既卒者大規模調査にみる大学教育の成果と課題

会場：C 272

企画者：山田剛史（京都大学）、松本留奈（ベネッセ教育総合研究所）、飯吉弘子（大阪市立大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）、望月由起（昭和女子大学）、池田輝政（追手門学院大学）、樋口健（ベネッセ教育総合研究所）

趣旨：大学の教育成果を捉える試みは様々なされているが、多くは在学学生を対象としたものである。教育の遅効性という観点から、卒業後に社会生活を営む中で経験は意味づけられ、学びと成長が実感されることが予想される。ベネッセ教育総合研究所は、既卒者約2万人を対象に「大学での学びと成長に関するふりかえり調査」を実施した。

本RTでは、この調査データを元に、在学学生調査との比較や在学中の変化からみた学びと成長の実態、世代間での比較を通じた教育改革の進展、現在の自己効力感を支える大学時代の経験、

キャリア形成を含む生涯学習の視点など、様々な観点から報告を行い、正課内外での学びと成長を促す大学教育の在り方について考察する。

テーブル4 高等教育のグローバル化と留学生問題

会場：C 271

企画者：夏目達也（名古屋大学）、杉本和弘（東北大学）、深堀聰子（国立教育政策研究所）

趣旨：現在、社会・経済のグローバル化を担う人材の育成が大学に求められている。優秀な学生を海外から多く日本の大学に招くこと、国際的に活躍できる能力を学生に獲得させること等は、大学の活性化や経営安定化の観点から不可欠の課題とされている。しかし、実際に実現するためには課題が多く、各大学の取組は必ずしも十分とは言えない。本ラウンドテーブルでは、留学生の受入・派遣を大学としていかに進めるか、そこにおける課題は何か等を検討する。具体的には、①大学教育グローバル化の世界的な政策動向、②日本の政策動向と主要大学のグローバル化対応等について検討する。

テーブル5 学生FDとは何か—その原点と今後を考える

会場：AS 261

企画者：木野茂（元立命館大学）、橋本勝（富山大学）、梅村修（追手門学院大学）、山下貴弘（山口大学）、曾根健吾（横浜国立大学）、高橋和（名城大学）、安田結城（日本大学）、玉水克明（鳴門教育大学）、久保卓也（富山大学）

趣旨：学生FDは今や全国各地の大学で取り込まれるようになったが、学生FDの目標や具体的な活動、さらに教職員との関係が大学によって様ではないため、学生FDとは何かをあらためて問われるようになった。そこで、学生参画型FDの先駆者である橋本と学生FDを創設して全国に広めた木野の発案で、学生スタッフとして活躍し現在も大学教職員や大学院生として大学教育に関わっている卒業生にパネラーを依頼し、学生FDの原点と今後を考えるディスカッションの場を企画した。当日は学生FDを支援してきた教職員から指定討論者として議論の口火をお願いし、異論反論を含めて率直な意見交換を行うことで学生FDの今後に資する機会としたい。

テーブル6 課外活動支援の課題

会場：AS 262

企画者：西垣景太（中部大学）、小林勝法（文教大学）、北徹朗（武蔵野美術大学）、松田優一（関西大学）

趣旨：1. 全国大学体育連合の活動と課題

大体連では、全国の大学と短期大学の課外活動の現状を把握するため調査を行い、各大学が抱える施設や指導者、費用、管理面での問題点を挙げたのち、学習支援やキャリア支援の実態を明らかにしている。課外活動支援について取り組み・検討している組織と議論する。

2. 日本私立大学連盟学生生活支援研究会の活動と課題

一般社団法人日本私立大学連盟から設置認可を受け、2016年に創設60周年を迎える「学生生活支援研究会」の活動の歩みと今後の課題や展望についてご紹介させていただき、今後の学生支援について参加者と共に考察する。

テーブル7 一般教育の知的遺産を活かす（その8）

会場：B 275

企画者：志津木敬（広島大学）、竹下賢（関西大学）、山本伸也（関西学院大学）、杉本孝作（四国学院大学）、近藤久雄（龍谷大学）、谷川裕稔（四国大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）

趣旨：本学会の前身である一般教育学会では、FD（Faculty Development）を「教授団の能力開発」と訳出しました。これまで取り上げた一般教育学会における一般教育の知的遺産と同様、FDに関しても理論と実践の關係に配慮した訳出が用いられました。いずれにしても、「教授団の能力開発」は、（その7）における「良き市民」の補完はいうまでもなく、能動的学習を考える上においても示唆に富んでいます。（その8）では主として「教授団の能力開発」という訳出の現代的意義を考えてみたいと思います。多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

テーブル 8 教養教育の本流 3

会場：B 276

企画者：児玉英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）、阿部勘一（成城大学）、居神浩（神戸国際大学）、東谷護（成城大学）、長尾佳代子（大阪体育大学）、橋爪孝夫（山形大学）、渡辺かよ子（愛知淑徳大学）

趣旨：本ラウンドテーブルの問題意識は、近年の教養教育をめぐる議論がジェネリックスキルの養成という側面を過度に重視しそれを測定しようとするがあまり、戦後間もなくのころ議論された教養教育の源流にあたる諸研究の蓄積が抜け落ちているのではないかというものである。日本学術会議『21世紀の教養と教養教育』に示されているように、教養教育の究極の目標は民主的社会とその豊かな展開を担う民主的市民の形成であった。しかし、いつのまにかその目標は後景に退き、より実践的・実用的な観点が重視されるという様相を示している。本ラウンドテーブルでは教養教育の本流を踏まえながら、時代が求める新たな教養教育を本音で語り合う場としたい。

テーブル 9 保健医療福祉系大学における教養教育の問題（8） - いま再び、専門職養成教育における人文・社会科学系教養教育の意義を問う -

会場：C 371

企画者：小野滋男（北海道医療大学）、志水幸（北海道医療大学）、町田修三（高崎健康福祉大学）、遠藤良仁（岩手県立大学）、森元拓（山梨大学）、小関久恵（東北公益文科大学）、宮本雅央（群馬医療福祉大学）、山下匡将（名古屋学院大学）、早川明（秋田看護福祉大学）

趣旨：現在、大学教育は、かつてない危機に直面している。その契機は、2015年6月8日に文部科学大臣が国立大学法人等に発出した「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」である。同文書は、国立大学法人のみならず、私立大学を含む学問の府全体に大きな影響を与えることが予想される。この問題の影響は、人文・社会科学系大学と比較して、高度専門職養成に特化した保健医療福祉系大学では僅かのように思われがちである。しかし、この問題の本質は、大学教育における“知のあり方”そのものに対する挑戦である。そこで、あえて本来のリベラルアーツ教育とは次元の異なる職業教育の視点から、当該問題が惹起する弊害に迫りたい。

テーブル 10 教養教育における理系学生のための科学リテラシーと社会リテラシー

会場：AS 361

企画者：内山弘美（東京大学）、久保田真理（慶応義塾大学）、西村秀雄（金沢工業大学）、立川明（高知大学）

趣旨：本企画は、2011年と2014年に開催した教養教育における環境関連の科学リテラシーに関するシンポジウムの続編である。今回は(1)授業科目名にはこだわらず、理系学生に対して行っている教養科目全般(専門基礎科目も含む)を対象とする。(2)理系学生に対する科学リテラシーについては、2011年のラウンドテーブルで提示した、6つのカテゴリーの視点から考える。(3)理系学生のための社会リテラシーは、例えば、科学者の社会的責任など、科学と社会の課題を考えさせる教育を対象とする。

テーブル 11 大学体育の成績評価を考える

会場：AS 362

企画者：木内敦詞（筑波大学）、松元剛（筑波大学）、奈良隆章（筑波大学）、日野克博（愛媛大学）、富川理充（専修大学）

趣旨：1991年の大学設置基準大綱化以降、体育を必修から外した大学での退学率増加、逆に体育を必修に戻した大学での退学率減少という事例が存在する。これは、体育が学生の大学生活への適応に一部貢献していることを示唆する結果といえるかもしれない。本ラウンドテーブルでは、①大学体育の成績評価の標準化にいち早く取り組んできた愛媛大学の事例、②スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの獲得を教育目標に掲げる専修大学の事例、③最長3年間の必修体育授業の教育理念・目標を「筑波体育」として整理した筑波大学の事例をもとに、各大学における体育の目的と内容に関する情報を共有するとともに、その成績評価方法を中心とした議論を行う。

テーブル 1 2 現代のリベラルアーツとしての理数工系科目 (STEM) の開発と教育実践のために

会場: AS 363

企画者: 細川敏幸 (北海道大学)、鈴木久男 (北海道大学)、山田礼子 (同志社大学)、羽田貴史 (東北大学)、塚原修一 (関西国際大学)、森利枝 (大学評価・学位授与機構)、高橋哲也 (大阪府立大学)、林哲介 (京都三大学教養教育研究・推進機構)

趣旨: STEM 教育に関して以下のような開発と実践を行う。

- * 従来の分野の枠を拡張、人文社会科学とも連携した広い視野を持つ理数工系各科目やカリキュラムの開発
- * 従来の分野の枠を越えた“インテグレート科学”“インテグレート工学”の開発
- * 文系学生を想定した現代人に必須の数学リテラシー科目の開発
- * 及び STEM の質保証の観点からの FD やプレ FD の計画と実施

テーブル 1 3 STEM 教育改善とアクティブ・ラーニング

会場: AS 364

企画者: 吉永契一郎 (金沢大学)、坪田幸政 (桜美林大学)、杉森公一 (金沢大学)、斉藤準 (帯広畜産大学)、中島英博 (名古屋大学)

趣旨: 日本においても、アメリカにおいても、若者の STEM (理数科) 離れ、大学生の STEM 学力低下が指摘されて久しい。アメリカにおいては、専攻決定時の理系離れが、日本においては、卒業時の質の保証が課題となっている。そのため、いずれもデータに基づいた教授法改善、分野別 FD の推進、学修支援、入門科目改革の方針が打ち出されており、その中心にあるのがアクティブ・ラーニング (AL) である。本ラウンドテーブルにおいては、AAU によって、2013 年度から開始された STEM 教育改革プロジェクトの視察報告、日本の STEM 教育における実践を題材に、AL の意義とその多面性について意見交換を行いたい。

テーブル 1 4 STEM 教育で社会に生かせる科学的思考を育めるか

会場: AS 365

企画者: 齋藤芳子 (名古屋大学)、黒田光太郎 (九州産業大学)、安田淳一郎 (山形大学)、堀一成 (大阪大学)、千代勝実 (山形大学)

趣旨: 本ラウンドテーブルでは、STEM (科学・技術・工学・数学) 教育で科学的思考を育成する意義に立ち戻り、科学的思考力を社会に生かしてゆけるような教育目標のあり方や授業設計の報告をもとに、学生評価や授業評価について議論していきたい。

具体的には、背景状況の整理と企画説明 (齋藤) の後、STEM 教育のなかで科学的思考を育成する事例 (安田氏) と、文系対象の実験科目で科学的思考育成に取り組む事例 (堀氏) を報告する。さらに「STEM だけでいいのか、社会はいらぬか」との定立 (黒田氏) を受けて、科学的思考を社会に生かすという視点から、議論していきたい (コメンテーター: 千代氏)。

テーブル 1 5 教員を救え! 教育現場で起こる難問は解決できるのか: 総合診療医ドクター FD

会場: AS 356

企画者: 清水亮 (神戸学院大学)、上野寛子 (明治学院大学)、山地弘起 (大学入試センター)、たなかよしこ (日本工業大学)、宮浦崇 (九州工業大学)、圓月勝博 (同志社大学)、小田隆治 (山形大学)

趣旨: ユニバーサル化が進み、選ばなければ大学に入れる全入時代。大学は、入試の多様化を図り、定員確保のため躍起になってきた。その結果、学生の学びに対する姿勢や興味・関心が多様化し、学力の幅は拡大している。教員には、できるだけ多くの学生を、早くから授業に巻き込むことが一層求められている。最初に、多様な分野において教育現場で起こる難問に果敢に挑んでこられた先生方の経験と方策をお聞きする。そしてフロアのみならず、現在増えて困っている事例について、ミクロだけにとどまらずマクロまで広く、みんなで解決策を探っていく。最後に再び、目の前の学生を見据え、どうすれば学生を授業に巻き込めるのかについて全員で議論したい。

テーブル16 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅷー「学ぶ責任」「教える責任」「支える責任」ー

会場：AS 357

企画者：米田敬子（文教大学）、高橋真義（桜美林大学）、中村拓昭（九州産業大学）、十河功一（九州女子大学）、菊地勇次（文部科学省）、郷原正好（九州大学）、杉原亨（関東学院大学）、田尻慎太郎（横浜商科大学）

趣旨：今後、競争が激化する大学が発展的に存在するためには、教育資産である学生・教員・職員が持っていないなければならない「責任」を束ねることが求められる。

なかでも、大学の主役である多様な学生の持てる能力を発揮させ、学びのモチベーションを高めるためには、学生教職員の三者が大学教育における役割と責任を認識し、大学の場において啓発し、共鳴させることが重要であると考えます。

本ラウンドテーブルでは、学生の「学ぶ責任」、教員の「教える責任」、職員の「支える責任」を改めて問う。

参加者とグループワークにより、学生が目を輝かせる大学教育の新たな可能性を探ることとする。

テーブル17 アクティブラーニングとFD

会場：AS 358

企画者：久保田祐歌（徳島大学）、土岐智賀子（立命館大学）、杉原真晃（聖心女子大学）

趣旨：アクティブラーニングの導入の課題を検討すると、教員個人の授業改革に対する意欲の高まりは見られる一方で、多くの教員にとって実際の授業改革にはいたっていないこと、高等教育機関・高等教育機関連携組織においては、教員の授業改革を支援するために教員研修プログラムが設置されているところが少なくないものの、十分に活用されていないという問題が浮き彫りになってくる。そこで本ラウンドテーブルでは、教員研修プログラムの実践事例とその課題の報告ならびに研修プログラムを活用する教員の立場からみた課題を共有することによって、教員研修のあり方について汎用的に活用できそうなモデルを抽出してゆきたい。

テーブル18 ルーブリックの多面的な活用ー課題と展望ー

会場：AS 359

企画者：高森智嗣（福島大学）、川越明日香（長崎大学）、西村君平（弘前大学）、橋本健夫（関西国際大学）

趣旨：近年、能動的学修の導入等に見られるように、大学教育は質的転換を迎えている。そのような状況にあって、「学修成果」を取巻く状況も変化しており、その評価や可視化を支援するツールとしてルーブリックが注目を集めている。ルーブリックは、一般的に「評価基準表」として、評価の側面を強調されることが多いが、実際には、その活用方法は評価だけに留まるものではない。本ラウンドテーブルでは、4大学の事例から、学修目標の提示・共有、学修成果の評価、学修の振り返り等のルーブリックの多面的な活用方法を報告するとともに、課題、及び今後の展望について検討する。

テーブル19 これからの大学における教育・学修支援の専門性

会場：AS 368

企画者：竹内比呂也（千葉大学）、山崎千鶴（玉川大学）、井上真琴（同志社大学）、工藤潤（大学基準協会）、村尾真由子（筑波大学）、谷奈穂（千葉大学）、御手洗明佳（千葉大学）、白川優治（千葉大学）、岡田聡志（千葉大学）

趣旨：現在、大学教育の質的転換と学修の向上のために、大学の教育支援・学修支援の充実が求められている。それを担う職員には、どのような能力、専門性が必要であろうか。本ラウンドテーブルはこのことを主題に、(1) 調査を通じて得られた教育・学修支援に求められる専門性について問題提起を行い、(2) その内容に学修支援を担当する複数の現職大学職員からのコメントを得た上で、(3) ラウンドテーブル参加者全員でワークショップを行い、その結果を全体で議論する。このことを通じて、これからの大学における教育・学修支援に必要な専門性を幅広く議論する。

12:00~13:00 昼食

13：00～13：50 事業報告会

会 場：B棟グランドホール

13：50～14：10 休憩

14：10～15：30 基調講演

会 場：B棟グランドホール

演 題：Waseda Vision 150 による教育力向上へのチャレンジ

講 師：大野 高裕 氏（早稲田大学・理事）

司 会：安岡 高志 氏（立命館大学・本大会実行委員長）

15：30～15：45 休憩

15：45～17：45 公開シンポジウム

会 場：B棟グランドホール

テーマ：伸びる大学の教育力は何が違うかーデータに基づいて検討するー

シンポジスト：

大学経営の観点から : 吉武 博通 氏（筑波大学）

IRと教学を担う職員の観点から : 山本 幸一 氏（明治大学）

成果の見える教育実践の観点から : 日向野 幹也 氏（早稲田大学）

高等教育開発の観点から : 佐藤 浩章 氏（大阪大学）

指定討論：濱名 篤 氏（関西国際大学）

司 会 : 鳥居 朋子 氏（立命館大学）

17：45～18：00 移動

18：00～19：30 情報交換会

会 場：B棟イベントホール

6月12日（日）

9：00～ 受付

9：30～12：00 自由研究発表 I （○は登壇者）

部会1 学士課程教育

会 場：AS 356

司 会：串本剛（東北大学）、山田礼子（同志社大学）

9:30～ 9:50 一貫性・体系性をもったプログラムレベルの評価のデザインー初年次教育から臨床実習までー

○小野和宏（新潟大学）、齋藤有吾（京都大学）、松下佳代（京都大学）

9:50～10:10 FD ワークショップ「カリキュラムアセスメント」のデザインと評価

○上田勇仁（大阪大学大学院）、吉田俊弘（大正大学、非会員）、佐藤浩章（大阪大学）

- 10:10～10:30 卒業研究の研究：割当単位数に注目して
○串本剛（東北大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 ブラジルの高等教育における評価と質保証－学生学力試験 ENADE をめぐる三大学の
対応事例－
○山口アンナ真美（北海道教育大学）、塚原修一（関西国際大学）
- 11:00～11:20 大学教員の研究意欲に影響を与える要因について－日本の国立大学のデータから
○川端壮康（尚絅学院大学）、○小泉嘉子（尚絅学院大学）、桂重樹（尚絅学院
大学）、田村嘉勝（尚絅学院大学）、李篠平（大連理工大学、非会員）、王冲（大
連理工大学、非会員）
- 11:20～11:40 総合討論

部会 2 教育方法・授業改善（1）

会 場：AS 357

司 会：杉原真晃（聖心女子大学）、濱名篤（関西国際大学）

- 9:30～ 9:50 全入時代の大学教育の共通教育科目に求められる授業の工夫の試みと課題の考察
○清水亮（神戸学院大学）
- 9:50～10:10 自己形成史における物語とパーソナル・ライティング－「パーソナル・ライティング」
を経験した大学卒業生への聞き取り調査から－
○谷美奈（帝塚山大学）
- 10:10～10:30 サービスラーニング終了後の学生による継続的な地域とのかかわりの要因
○杉原真晃（聖心女子大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 東日本大震災ボランティア参加大学生からみる大学教育
○箭内任（尚絅学院大学）、今井誠二（尚絅学院大学）、上村静（尚絅学院大学）、
内田龍史（尚絅学院大学）、菅原真枝（東北学院大学）、田島裕之（尚絅学院大
学）、新田貴之（尚絅学院大学）、濱崎雅孝（神戸松蔭女子学院大学、非会員）、
濱野道雄（西南学院大学）
- 11:00～11:20 学生主体 PBL における学生の成長と課題～シンポジウムの企画・運営を通じて～
○櫻井典子（新潟大学）、松井克浩（新潟大学、非会員）、松井賢二（新潟大学、
非会員）、高橋秀樹（新潟大学、非会員）
- 11:20～11:40 学生・大学職員の連携クラスによるリーダーシップ教育の設計と評価－学生・職員・教
員の協働を目指して－
○丸山智子（愛媛大学）、井上雅裕（芝浦工業大学、非会員）
- 11:40～12:00 総合討論

部会 3 FD・プレFD

会 場：AS 358

司 会：吉良直（東洋大学）、吉永契一郎（金沢大学）

- 9:30～ 9:50 米国研究大学における学習評価能力養成を目指す大学教員準備プログラムの展開
○吉良直（東洋大学）
- 9:50～10:10 SoTL に基いた教育実践研究に関するプレ FD プログラムの開発－大阪大学未来の大学
教員養成プログラムを事例に－
○大山牧子（大阪大学）、根岸千悠（大阪大学、非会員）、佐藤浩章（大阪大学）
- 10:10～10:30 アクティブ・ラーニングの深化・充実を支援する FD リーダー制度と研修設計
○杉森公一（金沢大学）、河内真美（金沢大学）、上畠洋佑（金沢大学）、西山宣
昭（金沢大学）
- 10:30～10:40 休憩

- 10:40～11:00 教職協働による授業コンサルテーションの実践
○中嶋清香（東海大学）、成川忠之（東海大学、非会員）、芳川玲子（東海大学）、山本義郎（東海大学）、緒方道郎（東海大学）、内田晴久（東海大学、非会員）
- 11:00～11:20 リフレクションによる同僚性の構築と指導法の改善—教育と研究の相乗効果を目指して—
○野村幸代（茨城大学）、○飯村文香（茨城大学）
- 11:20～11:40 音楽大学演奏系教師向け FD 方法の提案
○中西千春（国立音楽大学）
- 11:40～12:00 総合討論

部会 4 学生との連携

会場：AS 359

司会：木野茂（元立命館大学）、三浦真琴（関西大学）

- 9:30～ 9:50 学生参加・参画による大学教育の質保証—日本における現状と他国からの示唆—
○曾根健吾（横浜国立大学）
- 9:50～10:10 学生参加による質保証—ボローニャ・プロセスにおける<消費者としての学生>の検討を中心に—
○山田勉（京都大学大学院）
- 10:10～10:30 学生FDとは何か—学生FD団体と支援教職員へのアンケート調査から
○木野茂（元立命館大学）、○梅村修（追手門学院大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 日本の大学における学生参加論の変遷に関する研究
○前田裕介（大阪大学大学院）
- 11:00～11:20 大学図書館と学生協働
○村上孝弘（龍谷大学）
- 11:20～11:40 学生と作る授業・学生が創る授業
○三浦真琴（関西大学）、○松田昇子（関西大学）
- 11:40～12:00 総合討論

部会 5 学生支援・ピア・サポート（1）

会場：AS 361

司会：佐々木一也（立教大学）、秦敬治（追手門学院大学）

- 9:30～ 9:50 アクティブ・ラーニング型授業における学修支援を通じたアドバイザー学生の学び
○河内真美（金沢大学）、杉森公一（金沢大学）、上畠洋佑（金沢大学）
- 9:50～10:10 学習支援に従事する学生の成長段階に関する考察
○鈴木学（東北大学）、○足立佳菜（東北大学）
- 10:10～10:30 アクティブラーニングのためのファシリテーター育成の試み
○宮本知加子（福岡工業大学）、小田部貴子（福岡工業大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 「経験を学びに変える」リーダーシップ養成プログラムについて
○山内一祥（佐賀大学）、岸岡洋介（京都外国語大学）、村田晋也（愛媛大学）、秦敬治（追手門学院大学）
- 11:00～11:20 スチューデント・アシスタント（既履修生）による授業の実践と課題—初年次キャリア科目 町おこし PBL の事例から—
○勝又あずさ（成城大学）
- 11:20～11:40 学生のリーダーシップ育成を目指したプログラム手法に関する考察
○岸岡洋介（京都外国語大学）、○山崎その（京都外国語大学）、中嶋大輔（京都外国語大学、非会員）、村岡孝之（京都外国語大学、非会員）
- 11:40～12:00 総合討論

部会 6 教学 IR

会場：AS 362

司会：沖清豪（早稲田大学）、山田剛史（京都大学）

- 9:30～ 9:50 大学教育の学習成果に留学経験が及ぼす影響についての検討
○河合道雄（京都大学大学院）、山田剛史（京都大学）
- 9:50～10:10 大学生の主体的学び：工学部の事例
○藤墳智一（宮崎大学）
- 10:10～10:30 体育会運動部に所属する学生が持つ価値認識
○金森史枝（名古屋大学大学院）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 フォーカスグループインタビューによる教学 IR の実践
○上島洋佑（金沢大学）、杉森公一（金沢大学）、河内真美（金沢大学）、
北島大器（株式会社ラーニング・イニシアティブ、非会員）
- 11:00～11:20 学習と成長のプロセスを可視化する、評価指標の構造化・体系化の試み
○岡田佐織（ベネッセ教育総合研究所）
- 11:20～11:40 総合討論

部会 7 教職員の専門性

会場：AS 363

司会：白川優治（千葉大学）、中井俊樹（愛媛大学）

- 9:30～ 9:50 看護教員に求められる教授スキルとは？
○小林忠資（愛媛大学）
- 9:50～10:10 大学職員インタビュー調査による教育・学修支援の専門性
○白川優治（千葉大学）、○谷奈穂（千葉大学）、岡田聡志（千葉大学）、
米田奈穂（千葉大学、非会員）、多田伸生（千葉大学、非会員）、奥田聡子（千
葉大学、非会員）、御手洗明佳（千葉大学）、竹内比呂也（千葉大学）
- 10:10～10:30 教育・学修支援に求められる資質・能力と専門性に関する探索的研究
○米田奈穂（千葉大学）、○御手洗明佳（千葉大学）、○岡田聡志（千葉大学）、
白川優治（千葉大学）、木下直（千葉大学）、竹内比呂也（千葉大学）
- 10:30～10:40 休憩
- 10:40～11:00 専門職員が専門性を発揮できる環境要因に関するヒアリングデータ分析
○中沢正江（京都産業大学）、○山内尚子（京都産業大学）、佐藤賢一（京都産
業大学）
- 11:00～11:20 大学における第三の職種としての高度専門職のあり方
○私市佐代美（武庫川女子大学）、○山崎その（京都外国語大学）、
○宇田川拓雄（流通科学大学）
- 11:20～11:40 大学職員の教育支援者としての役割と能力育成
○竹中喜一（関西大学）
- 11:40～12:00 総合討論

部会 8 教養教育

会場：AS 364

司会：飯吉弘子（大阪市立大学）、羽田貴史（東北大学）

- 9:30～ 9:50 1980年代中国の大学における「思想指導」の教科設置と学生の思想指導
○呉嬌（名古屋大学大学院）
- 9:50～10:10 旧制高校における入学者および卒業者の変化についてー旧制弘前高校を事例としてー
○小暮克哉（弘前大学）
- 10:10～10:30 高大接続改革におけるコンピテンスとリテラシー ～数学分野に注目しつつ～
○水町龍一（湘南工科大学）
- 10:30～10:40 休憩

- 10:40～11:00 教養教育の質保証と汎用的技能－現実主義の陥穽と批判的思考力－
○児玉英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）
- 11:00～11:20 高等教育における批判的思考力の育成
○後藤康志（新潟大学）
- 11:20～11:40 修養と国民道徳への道
○加藤恒男
- 11:40～12:00 総合討論

12:00～13:00 昼食

13:00～15:00 自由研究発表 II （○は登壇者）

部会 9 教育方法・授業改善（2）

会場：AS 356

司会：川嶋太津夫（大阪大学）、橋爪孝夫（山形大学）

13:00～13:20 基盤教育における学生の主体性を喚起する歴史授業の試み－ポートフォリオ導入について－

○橋爪孝夫（山形大学）

13:20～13:40 多層授業サイクルによるアクティブラーニング深化の試み

○佐藤広子（目白大学）

13:40～14:00 法学部専門基礎科目における授業の協働運営について

○山本啓一（北陸大学）、菅尾暁（九州国際大学、非会員）、林田幸宏（九州国際大学、非会員）、神陽子（九州国際大学、非会員）、木村貴（九州国際大学、非会員）、藤野博行（九州国際大学、非会員）

14:00～14:20 協同的な学習環境をつくるためのグループワークの試み

○佐瀬竜一（常葉大学）

14:20～14:40 「社会学」集中講義で体罰について考える

○長尾佳代子（大阪体育大学）、○鷲北貴史（高崎経済大学）、工藤俊郎（大阪体育大学）、富江英俊（関西学院大学、非会員）

14:40～15:00 総合討論

部会 10 教育方法・授業改善（3）

会場：AS 357

司会：深堀總子（国立教育政策研究所）、溝上慎一（京都大学）

13:00～13:20 レポート課題タキソノミー－剽窃が困難となる論題分析

○成瀬尚志（京都光華女子大学短期大学部）、笠木雅史（京都大学大学院、非会員）、児島功和（山梨学院大学）、崎山直樹（千葉大学）、高橋亮介（川村学園女子大学、非会員）、片山悠樹（愛知教育大学、非会員）、井頭昌彦（一橋大学、非会員）

13:20～13:40 アクティブラーニングを支援する教材の作成と授業支援の試み

○長谷川紀幸（横浜国立大学）

13:40～14:00 学生の体験を言語化するアクティブラーニング科目の授業者用ガイドブックの開発

○岩井雪乃（早稲田大学）、兵藤智佳（早稲田大学、非会員）、河井亨（立命館大学）、和栗百恵（福岡女子大学）、秋吉恵（早稲田大学、非会員）、加藤基樹（早稲田大学、非会員）、島崎裕子（早稲田大学、非会員）、石野由香里（早稲田大学、非会員）

14:00～14:20 科学技術の不確実性を対象とした思考構築プログラムの開発と評価

○岩田陽子（東京農工大学）

- 14:20～14:40 バイオ系教材開発を通したモノづくり教育 ～目に見えないバイオの世界を楽しく表現する試み～
○清水秀信（神奈川工科大学）、栗原誠（神奈川工科大学、非会員）、山村晃（神奈川工科大学、非会員）、岩本嗣（神奈川工科大学、非会員）、田中理恵子（神奈川工科大学、非会員）、内藤千尋（神奈川工科大学、非会員）、飯田泰広（神奈川工科大学、非会員）

14:40～15:00 総合討論

部会 1 1 アクティブラーニング

会場：AS 358

司会：筒井洋一（元京都精華大学）、松下佳代（京都大学）

13:00～13:20 ディープ・アクティブラーニングを可能にする条件—知識習得と能力形成の両立—

○松下佳代（京都大学）

13:20～13:40 アクティブ・ラーニングにおけるステークホルダーと学生の心理特性—アクティブ・ラーニング授業における第三者の関与の意義—

○筒井洋一（元京都精華大学）、大木誠一（元神戸国際大学附属高等学校）

13:40～14:00 アクティブ・ラーニングにおけるステークホルダーと学生の心理特性—アクティブラーニングにおけるパーソナリティ特性の影響—

○大木誠一（元神戸国際大学附属高等学校）、筒井洋一（元京都精華大学）

14:00～14:20 アクティブ・ラーニングを活用した高大連携による入学前教育

○松尾美香（岡山理科大学）、望月雅光（創価大学、非会員）

14:20～14:40 総合討論

部会 1 2 キャリア教育

会場：AS 359

司会：池田輝政（追手門学院大学）、佐藤浩章（大阪大学）

13:00～13:20 知的職業人への準備の意識付けが自発的な学びの姿勢を生み出す効果について

○比屋根均（ラーテン技術士事務所）

13:20～13:40 大学院生のキャリア開発を意図したアカデミック・ライティング指導法科目

○堀一成（大阪大学）、坂尻彰宏（大阪大学、非会員）

13:40～14:00 企業人が考える教養教育プログラムの実践と評価—イノベティブ人材をいかに育成するか—

○佐藤浩章（大阪大学）、○佐藤文亮（ワークスアプリケーションズ）、

○津吹達也（京都工芸繊維大学）、浦田悠（大阪大学、非会員）

14:00～14:20 大学院修了者を採用する企業—「就職四季報」の分析から

○二宮祐（茨城大学）

14:20～14:40 重度障がい者雇用を促進する企業における課題解決型インターンシップの取り組み

○高木克昭（九州共立大学）

14:40～15:00 総合討論

部会 1 3 学生支援・ピア・サポート（2）

会場：AS 361

司会：石渡尊子（桜美林大学）、梅村修（追手門学院大学）

13:00～13:20 ピア・サポートにおける支援対象者の学校生活適応度の検討—ピア・サポーターの人間関係に焦点を当てて—

○小林智裕（京都大学大学院）

13:20～13:40 学生の能力開発を促進する要因

○岸岡奈津子（追手門学院大学）、田上正範（追手門学院大学、非会員）、

上田滋夢（追手門学院大学、非会員）、梅村修（追手門学院大学）、秦敬治（追手門学院大学）

- 13:40～14:00 正課外教育プログラムとしての学修支援開発に関する一考察
○河島広幸（山口大学）、林透（山口大学）
- 14:00～14:20 コミュニケーションスキルと就学上の適応について
○富家直明（北海道医療大学）、新川広樹（藤女子大学、非会員）
- 14:20～14:40 差別解消法前後の大学における障害学生支援の変化と課題について
○小川勤（山口大学）、○岡田菜穂子（山口大学）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 1 4 ICT

会 場：AS 362

司 会：江原昭博（関西学院大学）、高橋哲也（大阪府立大学）

- 13:00～13:20 インタラクティブ教材“THE LAB”を講義内および課題で使用した研究倫理教育の改善
○西村秀雄（金沢工業大学）
- 13:20～13:40 情報システム構築と教職協働：ポートフォリオ導入を通じた取り組み
○江原昭博（関西学院大学）
- 13:40～14:00 クラウドを利用した課外活動における学生の協働学習への参加状況の分析
○仙石昌也（愛知医科大学）、宮本淳（愛知医科大学、非会員）、山森孝彦（愛知医科大学、非会員）、久留友紀子（愛知医科大学、非会員）、橋本貴宏（愛知医科大学、非会員）
- 14:00～14:20 省察を促す手段としての学生による授業回毎の学習記録の効果
○佐藤尊範（東海学院大学）
- 14:20～14:40 大学教職員向けセミナー動画配信サイト PDPonline の開発
○今野文子（東北大学）、朱嘉琪（東北大学、非会員）、稲田ゆき乃（東北大学、非会員）、三石大（東北大学、非会員）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 1 5 学習成果の測定と活用

会 場：AS 363

司 会：橋本健夫（関西国際大学）、森朋子（関西大学）

- 13:00～13:20 準正課教育の効果に関する一考察—複合型プログラムの効果に着目して—
○黒田友貴（株式会社フェローシステム）
- 13:20～13:40 パフォーマンス評価における教員の評価と学生の自己評価、および間接評価との関連
○斎藤有吾（京都大学）、小野和宏（新潟大学）、松下佳代（京都大学）
- 13:40～14:00 簡易版反転授業の導入とその効果～事前学習と授業内演習の相関について～
○古賀暁彦（産業能率大学）
- 14:00～14:20 小さなデータを生かす授業改善
○橋本健夫（関西国際大学）、川越明日香（長崎大学）
- 14:20～14:40 初年次必修科目の教育効果測定 - 政策科学部の学生は基礎演習で何を学ぶのか? -
○桜井良（立命館大学）
- 14:40～15:00 総合討論

部会 1 6 ラーニング・コモンズ

会 場：AS 364

司 会：栗田佳代子（東京大学）、村上正行（京都外国語大学）

- 13:00～13:20 研究型大学図書館における SD としての「新図書館計画課題検討グループ」の実践と評価
○阿部卓也（東京大学大学院）、谷島貫太（東京大学附属図書館、非会員）、鈴木祐介（東京大学附属図書館、非会員）、栗田佳代子（東京大学）、吉田壘（東京大学）

- 13:20～13:40 **ライティングセンター利用件数の経年分析**
 ○西浦真喜子（関西大学）、○小林至道（関西大学）、○毛利美穂（関西大学）、
 本村康哲（関西大学、非会員）
- 13:40～14:00 **ラーニング・コモンズ内のエリア別利用傾向と学習成果—同志社大学良心館 LC 利用ア
 ンケート調査から—**
 ○浜島幸司（同志社大学）、井上真琴（同志社大学）、岡部晋典（同志社大学、
 非会員）、鈴木夕佳（同志社大学、非会員）、野田宣彦（同志社大学、非会員）、
 山口夏奈（同志社大学、非会員）、三宅重彰（同志社大学、非会員）、山田礼子
 （同志社大学）
- 14:00～14:20 **ラーニングコモンズにおける学習支援の運営と学生スタッフの関与**
 ○岩崎千晶（関西大学）
- 14:20～14:40 **総合討論**

部会 17 大学運営

会 場：AS 365

司 会：大森不二雄（首都大学東京）、夏目達也（名古屋大学）

- 13:00～13:20 **専門職養成型大学院における教育・運営体制に関する研究**
 ○戸田千速（東京大学大学院）
- 13:20～13:40 **PDCA サイクルを再考する**
 ○須長一幸（福岡大学）
- 13:40～14:00 **教育・研究活動における教員と事務系職員との連携体制・協働性の構築に関する一考察
 （高大連携福井大学ラウンドテーブルの省察より）**
 ○松田淑子（福井大学）、○鎌田康裕（福井大学）
- 14:00～14:20 **地方創生を通じた大学組織開発（OD）に関する一考察 ～大学共創から地域共創へ～**
 ○林透（山口大学）、山下貴弘（山口大学）
- 14:20～14:40 **高等教育における、多様な専門分野の相互参照について-日本学術会議「大学教育の分野
 別質保証の在り方について」を参考に-**
 ○似内寛（東北福祉大学）
- 14:40～15:00 **総合討論**

大会参加要領

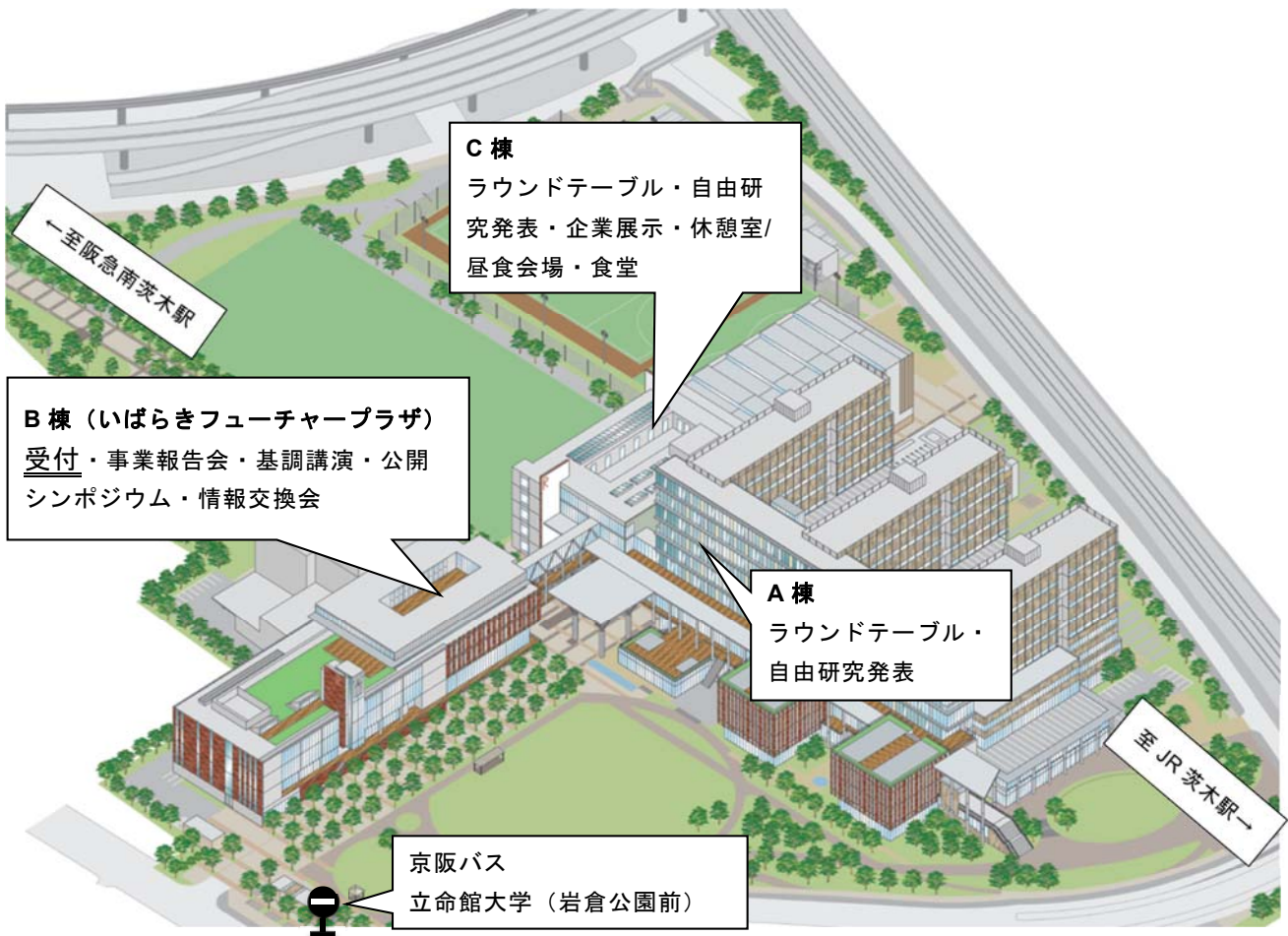
1. 大会会場へのアクセス

<立命館大学大阪いばらきキャンパス>大阪府茨木市岩倉町2-150



JR東海道本線 茨木駅下車 徒歩約5分
阪急京都本線・大阪モノレール線 南茨木駅
下車 徒歩約10分／京阪バス約5分
※所要時間は交通状況により異なります。

<A棟・B棟・C棟へのアクセス>



2. 参加申し込みについて

大会への参加申し込みは下記 URL からご登録ください。学会ホームページからアクセスできます。
大会参加申し込み URL : <http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku>

【参加費用一覧】

費用項目		申込日	
		5月13日(金)までの事前支払	大会当日
参加費	会員・一般	5,000円	6,000円
	学生	2,000円	3,000円
情報交換会費	会員・一般	5,000円	6,000円
	学生	3,000円	4,000円
6月11日(土)のお弁当代		1,000円(税込)	
6月12日(日)のお弁当代		600円(税込)	
『要旨集』のみ希望		2,000円(送料込)	

- 参加にかかる合計金額（情報交換会参加・お弁当申込の場合は、情報交換会費・お弁当代を含む）を5月13日（金）までに郵便局等から次の事項を記載の上原則一枚おひとり分をお振り込み下さい（振込手数料はご負担下さい）。ご送金人氏名と参加申込人氏名は同一でお願いします。複数名で申し込みをする場合は、次の点を必ず振込み用紙に記載してください。【大学名及び参加者氏名、申込内容（参加費、情報交換会費等）、問い合わせ時の連絡先の電話番号、発表申込時の受付番号】都合上複数名分振り込まれる場合は、参加者全員分の上記情報をご記入ください。なお、要旨集費 2,000円（送料込）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。
- 振替口座は5月13日（金）の入金を待つて閉鎖します。5月14日（土）以降に申し込みをされる方は、大会当日（6月11日（土）～12日（日））に受付にてお支払いください。なお、プレワークショップを申し込まれた方は、当日会場にて参加費 5,000円（テキスト代含む）をお支払いください。
- 支払方法は次の通りです（振替口座は5月13日（金）の入金を待つて閉鎖します）。
 - ・ ゆうちょ銀行から
 ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATMにより以下へお振込下さい。
 口座記号番号：00900-3-331924
 加入者名：大学教育学会 2016年度大会実行委員会
 （ダイガクキョウイクガツカイニセンジュウロクネンドタイカイジッコウイインカイ）
 - ・ 郵便局以外の金融機関から
 銀行名（金融機関コード）：ゆうちょ銀行（9900）
 店名（店番）：〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099）
 預金種目：当座
 口座番号：0331924
 加入者名：大学教育学会 2016年度大会実行委員会
 （ダイガクキョウイクガツカイニセンジュウロクネンドタイカイジッコウイインカイ）

3. 宿泊予約・託児室利用について

●宿泊予約について

大学教育学会第38回大会にご参加の皆様方の宿泊は、「京王観光株式会社大阪西支店」にて案内させていただきます。会場への交通の便の良いホテルをご案内させていただきます。予約は先着順となりますので、ご宿泊手配ご希望のご参加の皆様は下記のURLから宿泊登録をお済ませ下さい。予約ページには学会ホームページからもアクセスできます。

宿泊予約 URL : <http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku10>

※大阪・京都方面のホテルは、昨今外国からの観光客の増加に伴いホテルの手配が非常に難しくなっております。お早めの予約をお勧めいたします。なお早期に満室となる可能性がございますので予めご了承ください。(キャンセル待ちの受付はいたしておりません。)

募集期間 : 2016年4月15日(金)~2016年5月13日(金)

宿泊設定日 : 2016年6月10日(金)、6月11日(土)の宿泊分

ホテル : 大阪・京都方面のホテルをご案内いたします。ホテル詳細は宿泊登録のHPから詳細をご確認下さい。

支払方法 : 銀行振込または、クレジットカードでのお支払となります。

【銀行口座】三菱東京UFJ銀行 振込第一支店

種別 : 当座預金 口座番号 : 9530900 加入者名 : 京王観光(株)

※お支払方法で銀行振込をご選択の場合は、2016年5月20日(金)までに当社指定の口座へお振込み下さい。

<お問い合わせ先>

京王観光株式会社 大阪西支店

〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座1-3-15 J E I 西本町ビル6F

TEL : 06-6576-8828 FAX : 06-6541-8820

担当 室山 絢子 (むろやま あやこ)

●託児室の開設について

大学教育学会第38回大会にご参加の皆様方で託児室を必要とする場合は、下記までメールにてご連絡ください。下記の申込み期間中にご希望の方がいらっしゃる場合は託児室を開室致します。

開室日時 : 2016年6月11日(土) 9:00~18:00

2016年6月12日(日) 9:00~15:00

申込み期間 : 2016年4月15日(金)~6月6日(月)

利用料 : 1日あたり、お子さまお一人につき1,000円

※お申込みに際しては、申込者のお名前・ご所属、お子さまのお名前・年齢・性別・アレルギーの有無をお知らせください。なお、ご病気の場合はお預かりできません。また、ご利用いただく場合、当日の昼食、お気に入りのおもちゃなどはご持参ください。

<お申込み先>

大学教育学会第38回大会実行委員会 事務局 (E-mail: jacue38@gmail.com)

《2016年度大学教育学会課題研究集会について》

2016年度課題研究集会 企画委員会・実行委員会

2016年度課題研究集会（開催校：千葉大学）は、12月3日（土）～4日（日）に、千葉大学西千葉キャンパスで開催予定です。前年度と同様に、「ポスター・セッション」を実施いたします。この「ポスター・セッション」の発表資格や内容等は大会の「自由研究」と同等（詳細は、ウェブサイト内「大会実施要綱」をご確認ください。）とし、1発表につき、高さ180cm×幅90cmのパネルを用意する予定です（テーブルや電源、インターネット等はありません）。また、予稿集に掲載する原稿を提出していただくこととなります。具体的なスケジュールの予定等につきましては、以下をご確認ください。みなさまのご参加をお待ちしております。

2016年度大学教育学会課題研究集会プログラム（案）

【統一テーマ】「学生はいかに学んでいるのか」

【会場】 千葉大学 西千葉キャンパス

【プログラム案】

12月3日（土）

- 11:00～ 受付開始・ポスター準備
- 12:00～13:00 ポスターセッション・コアタイムⅠ
- 13:00～ 開会の挨拶等
- 13:30～14:30 基調講演
- 14:30～15:30 ポスターセッション・コアタイムⅡ
- 15:30～18:00 開催校企画シンポジウム
テーマ「学び方・考え方の転換 - 知識伝達をこえた大学教育と支援」
- 18:30～ 情報交換会

12月4日（日）

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～12:00 課題研究シンポジウム
- 12:00～13:20 昼食
- 13:20～15:50 課題研究シンポジウム
- 15:50～16:20 閉会の挨拶等

※プログラム等については、変更される場合があります。プログラム内容の詳細、参加申し込み方法等については、9月中旬発行予定の次のニューズレター103号にてお知らせいたします。

【ポスター・セッションについて（今後の予定）】

- ・ 申込期間：2016年7月1日（金）～8月5日（金）
※学会ウェブサイトの「会員ページ」からお申し込みいただけます。
- ・ 可否通知：2016年9月上旬
※会場の都合上、申し込み件数が多い場合には先着順とさせていただきます。
- ・ 要旨原稿提出締切：2016年9月30日（金）

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

今年度(2016年度)の会費請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。**5月20日(金)まで**にご入金ください。領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

ご入金は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の**大学教育学会 学会業務取扱センター**までその旨ご連絡下さい。

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送るなどの措置をとらせていただいております。また課題研究集会時の「ポスター・セッション」申込をお考えの方は、申込の前提条件になりますので、忘れずに会費入金をお済ませください。皆様には速やかな納入をお願い申し上げます。

なお、納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。

<「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1 第2ユニオンビル4F

TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

● 住所変更等会員情報更新のお願い

新年度を迎え、ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更のほどお願い申し上げます。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、上記の**大学教育学会 学会業務取扱センター**までお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者DM便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2～3回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い【アーカイブズ委員会】

特に探究している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録等(1979,1981,1989,1990,1993,1998,2000,2001,2002,2003,2004年)

課題研究集会要旨集(1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003,2004,2005,2008年)

その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

● 大学教育学会第38回(2016年度)大会参加費・情報交換会費等について

本ニューズレター(NL102号)に参加費・懇親会費等の払込について詳細をご案内しております。また、払込取扱票についても同封しております。

● 2016年度課題研究集会について

2016年度課題研究集会(開催校:千葉大学)は、12月3日(土)・4日(日) 千葉大学の西千葉キャンパスにて開催予定です。詳細は次回のニューズレター(103号、9月中旬発行予定)にてお知らせいたします。

● 大学教育学会第39回(2017年度)大会について

2017年度第39回大会は、日時を含めた詳細については未定ですが、広島大学で開催予定です。



【学会事務局】

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204
Tel/ Fax: 042-707-8112
E-mail: jacue.office@gmail.com
URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1 第2ユニオンビル4F
TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852
E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp